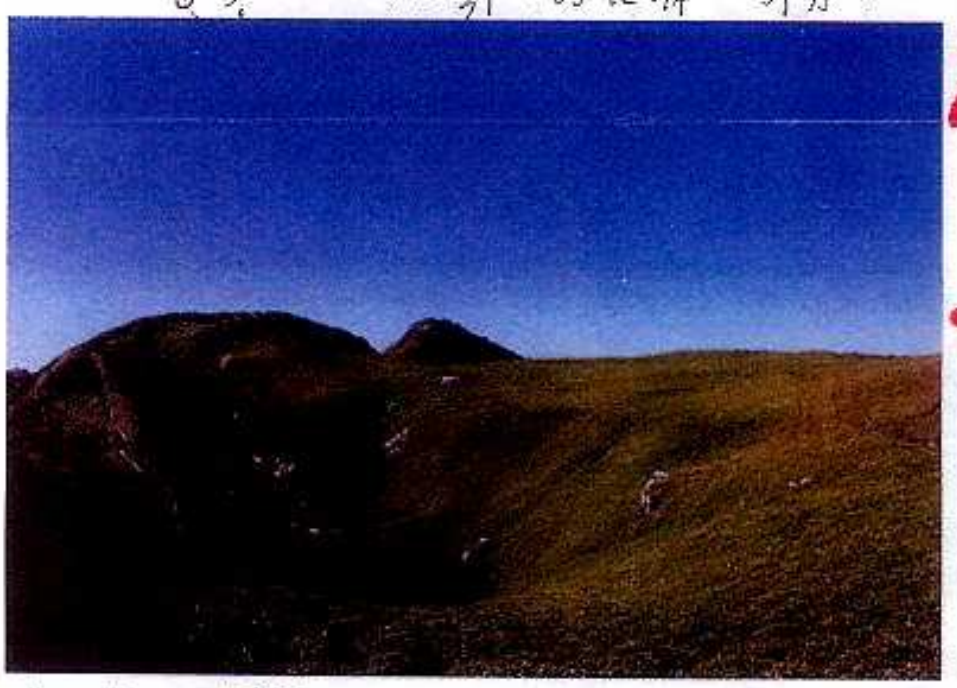
てんづ新聞

'12.10 No.18
発行 市岡由紀
発行 0883-88-5297

彼岸前後になると、あちらこちらに真紅な彼岸花が咲きはじめる。
十月と共に金木犀のいい香りがくはじめる。百舌の声も静かな山の空気を切りさく。自然は本当に不思議なことばかり。
そして、十月は、「平家マニスリー」だそうです。三好市内では、十日をはじめ様々なイベントが続きます。歌手の北山たけしさんもオープニングセレモニーで歌いました。クラシックからJAZZ、懐かしの人形浄瑠璃、写真展など目白おし。特論、平家祭りもあります。

行余曲折はありましたが、阿波踊りも2年連続されています。
三好市のイベントですから市内の何処で開催されてもいいのですが、えてして東祖谷山村のイベントが多いのです。違和感があります。

ALL祖谷は可能か



どうでもいいような事ですが、どこか変なのは変です。
自分達、団体個人の利益につながらなければ参加はしない、我田引水の知恵はよく働くし、他の団体や組織の足を引っぱり一蹴口を言う。わおお、子供のけんかの始末。

いのですが、東祖谷で二年以上も祖谷のイベントにかかわってますが、実施にあたって会合に参加したとか、それぞれのイベントの報告等の打ち合せをしたという話も聞きません。いつから平家マニスリーのイベントになったのでしょうか。

なかなかオール祖谷のイベントは難しいようです。
何回か、そんな芽はあったのですが、自ら何の組織には、手を広げてくれる様な話があったり、イベントにも誘うが反対に他のイベントには参加しない、利益につながらなければ、手を引いてしまう。だから、自分にちど必要であるより残っていることに大切にしたいのではなく、補助金があるから参加と、実行こういる様な状況。
このままでは、十年後には、新しい学校も用校になり、住んでる人もわずかな道路は広くなり、トンネルも多くなり、便利になりそうですが、イベントをする人がいなくなります。それも仕方ない、ことなのでしょうか。それもイベントの会社がやってくれるのでしょうか。

そばの花
三嶺 9月末
三嶺のりんどう